

## 私たちが地域と協働するうえで大切にしたいこと

北海道教育大学函館校

キャンパス長 五十嵐 靖 夫

皆様におかれましては、日頃より北海道教育大学函館校の教育研究活動並びに地域協働事業にご理解とご支援を賜りまして、ありがとうございます。函館校は「国際地域学科」として、国際的視野と教育マインドを持って地域づくりに寄与する人材の育成に取り組んでおります。函館校ではその中核的な部署として「地域協働推進センター」を位置づけております。

地域の課題を適切に捉え、解決策を検討し、解決へ向けて試行・実践する一連のプロセスを地域と大学との協働によって取り組んでいく「ソーシャルクリニック（以下「SC」）」では、これまで江差町、知内町、函館市をはじめとする道南の各地域において、さまざまな活動を展開してまいりました。また、4年前から開始した「SC巡回型サテライト・オフィス事業（巡回SC）」では、道南のすべての市町と各地域の課題について情報交換の機会を持つことができ、地域と大学との協働の可能性について意見交換を行ってきました。

今年度は、私も知内町、厚沢部町、厚真町、江差町を訪問し、SCや地域づくり支援実習の見学を通して、町職員や地元の方々、学校の先生方とお話する機会を得ました。どの自治体の職員の方も地元を愛し、地元のことを真剣に考えておられました。また、実習に参加している学生たちが、日常生活とは全く異なる環境に身をおき、戸惑いながらも地域のために何かをしたい、自分に何ができるだろうかと自問自答し、悩む姿にも触れることができました。

この経験を通して、私たちが地域と協働するうえで大切にしたいことは何だろうと考えるようになりました。未だその答えを見つけるには至っていませんが、いくつか大切にしたいことが見えてきたような気がします。

一つ目は「人と会って話すことの大切さ」です。新型コロナウイルス感染症の影響により、人と会うこと、人と話すことの機会が減りました。しかし、SCや地域づくり支援実習の見学を通して、改めて人と会って話すこと、一緒に考えることの大切さに気づきました。進化生物学者のジャレド・ダイヤモンドは「知の逆転」という著書の中で「インターネットを介して得られる情報は、実際に人に会って得られる情報にはとてもかないません。こうして面と向かって話す方がはるかにインパクトがあります。」と述べています。

二つ目は「共感」です。多くの地域の方々は、大学教員に対して専門的な助言を求めていることと思います。しかし、その助言は、その地域の暮らし、特徴、文化や歴史に共感した上で、共に悩み、考えたものでなければ、絵空事になってしまうかもしれません。

今後とも、函館校地域協働推進センターの活動とソーシャルクリニック事業をより発展させることで、地域の未来を共に考え、地域の諸課題の解決に取り組んでまいりたいと考えます。あわせて多様性の社会に生きる子どもたちの豊かな教育と学校づくりにも取り組んでまいりたいと思います。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和5年3月